

新入社員への手紙



新入社員の皆さん、入社おめでとうございます。

社会人としての新しい人生がスタートし、

心配や不安もある反面、

希望と期待を胸に新たな一歩を踏み出された皆さんに、

さまざまな経験を積んで活躍されている先輩方から、

期待を込めたメッセージをいただきました。

きっと、“土木の魅力とやりがい”を感じ取ることができるはずです。

まずは「あいさつ」から始めよう p2

りんかい日産建設(株) 土木事業部 総合評価積算課 課長 山田 浩司

新入社員の皆様へ p4

(株)ガイアートT・K 関東支店 東京営業所 主任 三井 昌生

疑問と向きあい、自己研鑽を p6

オリエンタル白石(株) 施工・技術本部 工事部長 遊津 一八

まずは「あいさつ」から始めよう



りんかい日産建設(株) 土木事業部 総合評価積算課 課長
山田 浩司

新入社員のみなさま、入社おめでとうございます。会社には少しは慣れたでしょうか。

時の経つのは早いもので、私自身、入社後、20年が経過しようとしています。私が会社に入社した当時は、バブル経済が崩壊して数年経過した後でしたが、第二東名高速道路（新東名）、東北新幹線、九州新幹線、都営・市営地下鉄などのビッグプロジェクト等も多く発注されていました。

当時は新社員も多く、配属された支店以外の同期生を把握するのも、やや困難な状況でした。このような中で、私は新社員の時期を過ごしました。

私はこれまでに、道路工事、造成工事、下水道工事、橋梁下部工事、災害復旧工事など、様々な工事に携わりました。新社員の時、搬入したダンプの碎石を降ろす場所も分からず、先輩社員に聞きながら現場をかけずり、指示していたのを今でも思い出します。

一つひとつの現場をこなすことで、経験した工事（工種）は自信となります。一度も経験していないものは、今でもそうですが不安なものです。何もかもそうですが、経験したことは自信につながっていくものです。みなさんもいずれ分かる日がくると思います。落ち着いて、あせらず仕事をこなしていきましょう。

また、土木の仕事は工場生産と異なり、ひと現場ひと現場、単品生産となります。構造物等の形状が異なることをはじめとし、土質条件や環境条件などが各現場違ってきます。したがって、これまで経験したことを応用し、考えて現場を進めていくことが重要となります。これが、土木は経験工学であるといわれるゆえんであり、おもしろいところです。

いくら教科書、仕様書や規準書等をくまなく勉強してきていても、文章で表せないものがこの業界には多くあります。この点については、経験に勝るものはありません。

このため、先輩社員や協力業者などの経験豊富な人から技術を勉強していくことが必要となってきます。先輩社員や協力業者の人たちから技術を学ぶには、コミュニケーションをとることが必要となります。これには、まず「あいさつ」をすることから始まります。

私は今でも実行をしています、「おはようございます」「お先に失礼します」「お疲れさまでした」「ありがとうございます」等のあいさつは、分かりやすいように、はっきり、少し大きな声で言うよう心がけています。

あいさつを元気よくすれば、先輩社員も快くこちらの質問に答えてくれます。さらに、より良い社会人ライフを過ごせると思います。みなさまの今後の活躍を期待しています。

新入社員の皆様へ



(株)ガイアートT・K 関東支店 東京営業所 主任
三井 昌生

新入社員の皆様、ご入社おめでとうございます。

社会人1年生となった今、期待と不安とが入り混じっているかと思います。この気持ちの高揚感はきっと人生で数回しかない貴重な気持ちです。この気持ちをしっかりと胸にしまい社会人生活のスタートを切ってください。

さて、入社1年目。右も左もわからぬままきっと現場に配属されて、戸惑いの連続で1日1日が過ぎていくでしょう。でも焦ることはありません。先輩方に教わり、一緒に現場をこなして体得していくこととなります。教わりつつ自ら考え、時には叱られ、ほめられ、慰められ、一緒に食事に、といった人と人とのつながりの強さを実感できるかと思います。

このようなことを書いていますが、入社したての頃は失敗だらけで、「お前は段取りが悪いな」とか、「また高さ間違えるなよ」なんて言われていました。

そんな私が、後輩社員を指導する立場になった今、先輩に教わったことで今でも心していることは「もし失敗したら、その原因をすぐに検証して、間違いの元になった思い込みをすぐに正す」ということです。現場はひとつと

して同じものではありません。その時その時、常に正しいことを検証し最善を尽くしていかなくてはなりません。私達が携わる業務は社会の動線を作る仕事であり、信頼される絶対的な技術力で間違えることなく緻密につくり上げることが求められています。この仕事は厳しい面もありますが、つくり上げた成果物を見ると大きな達成感と次の仕事へのやりがいを味わえるのではないのでしょうか。

色々なことがきっかけで、この「土木」という世界に足を踏み込んだ皆さん。作り上げた成果物に自分の名前は載りませんし、他の誰からもわかりません。しかし多くの人たちに貢献ができ、地図をかえる、地図に残る大きな仕事、達成感とやりがいを味わえる仕事に、皆さんの若い力を発揮してください。

最後になりましたが、入社してからは苦あり、楽あり、難あり、笑いあり。決してまっすぐなレールが敷かれているわけではありませんが、皆さんのやる気がきっとそのレールをまっすぐなものに変えていくものと信じております。そしてどこかの現場で皆さんと一緒に仕事ができることを頭に思い浮かべながら、一社会人として立派になれることを期待します。

疑問と向きあい、自己研鑽を



オリエンタル白石(株) 施工・技術本部 工事部長
遊津 一八

新社会人の皆さん、入社おめでとうございます。夢や希望を胸に抱き、土木技術者として第一歩を踏み出された皆さんを、期待を持って迎え応援したいと思います。

私が入社した当時は量的な拡充を図る新設事業が多く行われておりましたが、現在では社会から要求されるものも、質的なものへの転換が見られるようです。特にここ数年の状況は、経済状況、政治状況に建設投資が左右される傾向にあり、前政権では「コンクリートから人へ」と公共事業が悪視され抑制される傾向にありました。これが政権交代により、「国土強靱化」と180度転換し、現在があります。確かに一昨年の東日本大震災や過去の震災災害、また毎年のように発生する風水害による自然災害などでは、痛ましい人的被害も多く見られました。このような災害に対し、まだまだ十分にインフラが整備されているとはいえない状況です。建設産業（公共工事）は安心安全を確保する産業であることから、人々の生命と生活を守る土木事業の必要性が、ますます求められているのは、確かであると痛感しています。最近特に、「過去の公共施設に老朽化が著しい」と報道されることが多くあります。昨年末のトンネル天井板崩落事故は大変痛ましい事故でありましたが、同じ建設業者として、過去に自分たちが携わった建造物に、利用者にとって危険となっているものは無いのかと考えさせられるものでした。今後は新たに築造するものだけでなく、私たちの先人達が残した、建造物の維持管理も含めた公共

施設全般の維持が求められています。まさにこの部分は新しい視点であり、土木技術者として知恵と工夫が必要となります。今後の技術者の力の発揮するところはまだまだ多くあります。これからの若手技術者の活躍を期待するものです。

私が入社した35年前は、前述しましたように高度経済成長期から安定期へと推移する過程で、インフラ整備も首都圏から地方へと、拡充が図られつつある時代であり、まだまだ物的な建設投資（公共事業）が必要とされる時代でありました。そのような時代背景の中、私は高速道路工事、新幹線工事に入社当時に従事したのが、土木屋人生のスタートでした。技術者として種々の土木構造物を担当し、つくる楽しみを味わいながら、やりがいもあり、時には失敗をしながら苦勞の連続でありましたが、私にとっては今では良い思い出です。そこでの経験が後の糧になっており、「若いときの苦勞は買ってでもせよ」と言われるとおり、若い頃は全て良い経験であったように思います。ここ数年の情報化の発展は著しく、全てが手書きの時代であった頃から見れば、現在では事務処理作業もスピード感があり、大変質の高い書類も要求されるようです。しかし、新しい技術革新や新規機材等の開発はめざましいものがあるものの、現場作業は基本的には変わりがなく、作業員を指導、監督し現場施行する日々の積み重ねです。技術者の適切な指導、監理が求められることは従来とあまり変わりはありません。担当技術者の良否が工事成果に影響するので、多くのものを経験、吸収して頂きたいと思います。

これから皆さんは、土木技術者として設計技術者や現場技術者として活躍されることと思いますが、常に「この業務が何のために必要なのか?」「この業務の次に何があるのか? 目的は?」と先を見据えた中で業務に取り組んで頂きたいと思います。疑問に思ったことを放置しないで、「なぜ?」と思うことに常に向き合うことも必要なことです。良い構造物をつくり公共に届ける、誠にやりがいのある大きな仕事が皆さんを待っています。「技術は裏切らない」——常に自己の技術研鑽、能力開発に努め、将来の建設業界を支える技術者となられることを期待しています。